

第3回滋賀の生涯学習社会づくり推進協議会における会議概要

期日：平成22年7月8日（木）9:30～12:00

場所：県庁本館4-A会議室

- | |
|--|
| <p>1. 開 会
あいさつ（生涯学習課長）</p> <p>2. 議 事
（1）前回の協議会の概要について
（2）本県における生涯学習社会づくり推進の現状について
生涯学習県民意識調査の報告
社会教育委員会議の提言報告
（3）「滋賀の生涯学習社会づくり基本構想」（第4次）について
答申の体系・内容
（4）その他
今後のスケジュールについて</p> <p>3. 閉 会</p> |
|--|

【出席委員】（五十音順）

内田委員、宇野委員、大河委員、加藤委員、金森委員、神部委員、桑名委員、清水委員、西岡委員、藤井委員、堀委員、宮田委員、吉久委員

【欠席委員】熊田委員、谷口委員

1. 開 会

生涯学習課長あいさつ
配布資料確認

2. 議 事

（1）前回の協議会の概要について

事務局説明

第1回・第2回滋賀の生涯学習社会づくり推進協議会の概要報告（資料1）

（2）本県における生涯学習社会づくり推進の現状について

事務局説明

生涯学習県民意識調査の報告（資料2）

社会教育委員会議の概要報告（資料3）

（3）「滋賀の生涯学習社会づくり基本構想」（第4次）について

事務局説明

滋賀の生涯学習社会づくり基本構想（第4次）骨子案（資料4）

滋賀の生涯学習社会づくり基本構想概要比較表（資料5）

（会長）本日は、骨子案について協議をして、今後、中身を文章化していきたいと思います。次回の協議会では、答申の素案を出させていただき、第5回で完成させていく予定です。全体の構成についてはいかがでしょうか。第1章の基本的な考え方のところ、滋賀らしさについて、前回も前々回も、たくさんご意見いただいております環境や循環、継承など、滋賀における生涯学習の意義の点で、ぜひこれは入れておくべきというご意見がありましたら、出していただきたいと思います。

(委員) 全体の基本目標の「まなぶ いかす つなぐ・つながる」という構成は問題ないと思います。県民の方に見ていただいて、その重要なキーワードがここですので、「まなぶ いかす つなぐ」になるのか、「まなぶ いかす つながる」になるのか、リズム感と全体のイメージを考えるとというのがまず1点です。

滋賀らしさについては環境以外にちょっと思いつかないところで、また考えさせてもらいますが、生かすためのつなぎということを今回とても重視したいと思っているのですが、学びのつなぎと生かしのつなぎ、学ぶことと生かすことをつなぐという3つの次元があって、学びの中でも人と人、人と学びの機会をつなげるという発想も必要です。学習機会が多様化し高度化していく中では、単独の1つの機関や学習機会ですべてをこなすというのが、今はもう不可能な時代ですから、学びの機関どおしがネットワークを組むというつなぎも当然施策として考えなければいけないし、「いかす」のほうでもネットワークの中でより幅広い生かしの場をどう作っていくのかという発想も必要になってきます。

連携・ネットワークの推進とコーディネートシステムの構築を「つなぐ・つながる」で出してくることと、ここに社会全体の教育力の向上を持ってくるというのはちょっと無理があるかなと思います。社会全体の教育力の向上というのは、結局、学びをつないで生かして初めて高まるわけで、3つのサイクルを上手く動かすことによって、最終的には社会全体の教育力が高まっていくはずですが、1章に関わっては、そういうふうに直したほうが分かりやすいのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

(会長) リズムを考えたらどうかということですが、どうでしょうか。また、表記はひらがなより漢字のほうがいいでしょうか。ひらがなのほうがいいでしょうか。

(委員) ひらがなが好きというか、大人ばかりではなくて子どもから高齢者までを含んだ学びの機会ということを見ると、漢字よりもイメージ的に非常に柔らかいですし、生まれてから死ぬまで生涯にわたる教育というものを理解してほしいし、ひらがなのほうがいいかなと思います。

(会長) ひらがなは、ちょっと意味も幅広くなりますよね。漢字を使うと意味がある程度限定されますが、漢字のほうが絵のような形で頭にぱっと印象で入ってくるのかなと思います。いろんなご意見をいただいてからと思います。滋賀県の特徴ということで、環境問題が1番思いつくということですが、加えてこういうことも是非入れておいたほうが良いというご意見がありましたらおうかがいしたいと思います。

(委員) (1)の基本目標と、(2)の視点と方向性で、結局、同じことを丁寧に述べておられますが、そうであれば(1)を基本目標という言い方でよろしいのでしょうか。(1)のことを単にもう1回分かりやすく述べているようで、重なっているように思います。

(委員) 例えば、最終的に社会全体の教育力を高めるとか、そういうほうがいいのではないのでしょうか。

(会長) 今の構想は、1つの標語みたいな「学びあう楽しさ 生かし役立つ喜び」の下に、副題のような形で、「人と地域がともに輝く滋賀の生涯学習社会づくり」と書いてあるのですが、社会全体の教育力の向上というものが「まなぶ いかす つながる」というところから大きな目標として生まれるんだというような1つベースになるものが欲しいと思います。その1つの手法が、大切にしたい視点と方向性で、基本目標のところにもう少し大きな目標となるようなことを入れていったらいいのではないかなと思います。

(委員) 「まなぶ いかす」はキャッチフレーズで、基本目標は当然あるべき目指すべきものだと思います。その基本目標を具体的にどう実現するのかということと、具体的に目標として目指すべきものをきちっと書くべきだと思います。(2)の視点と方向性で、「まなぶ いかす」というキャッチフレーズそのものが視点なり方向性になってしまっているんで、学ぶというその視点なり方向性を説明する言葉が無いと、基本構想としては少しスタイルとして変なのかなという気がします。

(会長) 今のところで、具体的にどういうことでしょうか。

(委員) 例えば、学びそのものを、個人の要望と社会の要請という切り口で書かれているんですが、どんな学びを今回の構想で重要なものとして取り上げて、具体的に目指していくのかということを書き記述する形になりますから、その整理の仕方として個人の要望というのはちょっと変かなと思います。

もう一つは、第2章に関わってですが、基本目標なり視点と方向性というものを示して、それぞれの主体がどういう役割として実現していくのかということところが2章のところに無いと、1章と2章が完全に分離することになりはしないでしょうか。例えば地域という主体の中で、学びであるとか生かすであるとかつながるといふ、それぞれごとにそれぞれの主体があり、こういう取り組みや役割を果たしていきますという記述があれば、もう少し分かりやすくなると思います。

(会長) 1章が単に理想という形でおさまらずに、2章との関係で、もう少し具体的な動きというイメージ、進展、発展が感じられるようなつながりが必要かなと思います。

(委員) 今まで学んで生かして喜びを感じていたところから、さらにつながることによって、すごく変化があると思います。今までは地域の公民館や施設で学んで、学校や公民館で講師をして生かして、それをみんなに広めていくという、誰でもができないイメージでした。そういうイメージから、例えばつながるだったら、もっと身近につながると思うのですが、町内会の草の根ハウスとか自治会館とか地縁的なネットの中での学びや生かしも生涯学習だし、そこにも今回スポットを当てて、誰でもが参加できるような、地域住民の相互連携協力が生涯学習ですよっていうことを示していけるのかなと思います。

また、身近につながるという部分と、もう一つは広くつながる、例えばインターネットを通じて、出かなくても人とのつながりができていって生かしていけるような、今までのイメージを変えていける部分がこのつながりにあるので、具体的にどういうところでつながるんですよ、どういう方法をしたらいいんですよみたいなことが、この中にもう少し入っていくといいのではないかなと感じました。

(会長) 今まで連携とか協働という形で書かれているものが多いですが、「つなぐ・つながる」という重要な部分を「まなぶ」と「いかす」のところに真ん中に置いて、幅が広がっていくものだと思います。身近につながると広くつながるといふ視点をいただきましたので、これも踏み込んでいく必要があると思います。今インターネットという話が出ましたけど、いかがでしょうか。

(委員) 全体の章立てはこれで結構かと思うのですが、5年先のことも考えないといけないと思います。総務省が今進めている生涯学習の手段として考えていることは、インターネットをどう活用するかということです。もう2年後に実現すると思うのですが、データ放送が始まると、インターネットとテレビの境目がなくなって、テレビの中にインターネットが入るんです。インタラクティブテレビになると、テレビにキーボードが付いたりABCのボタンが付いて、生涯学習番組の講師が、これどう思いますか？ABCの赤と青と黄色のボタンをお茶の間のみなさん押してくださいって言ったら、みんなが押してリアルタイムで表示されて、視聴者のみなさんは80%くらいの方が理解されてますというようになってきます。「シンク グローバリー」とか「アクト ローカリー」って言いますよね。これから県内だけではなく全国レベルで学びのネットが広がっていくと思うのですが、実際の活動は、それぞれの地元になるので、地域のコミュニティが大事になるんです。だから、ネット社会での学びで、環境はどう変わるだろう、どう生かしていったらいいだろうというのを、「つなぐ・つながる」のところに書いていけばいいのではないかなと思います。

もう一つは、自立した個人の育成や自立したコミュニティが1章の1に載ってるんですが、自分に立つ自立か、自分を律する自律かというのはネットワークの世界では厳密に使い分けてるんです。自分に立つは、システムの設計の場合は、経済的に自立したという意味で使うんです。けど、自分で判断してネットワークを自分で律してっていうときのネットワークは自分を律するほうなんです。自立した立つを見ると自立支援法とかをイメージしてしまっただけで経済的な自立を思い浮かべてしまうんです。例えば生涯学習の5年後の社会では、行政はお金がないから、自分達でお金を出して自前でやるんですよっていつかの自立のイメージがあって、ネットを使った学びっていうのは、例えばこういう書き込みをしたらどんな影響があるんだろうとか、自分で自分を律していかないと、陰の部分が出てくるんですね。だから、自分を律

するほうの自律というキーワードも入れたほうがいいのではないかとというのが私の意見です。

(委員)立つ場合はどちらかと言うと経済的な自立という考え方なんですが、最近この考え方も変わってきてます。身体的自立、経済的自立、社会的な自立、そして精神的な自立、多分オートノミーとしての自律は精神的な自立にあたるんですね。自立はこれまでは一般的に経済的に自活できるようになることが自立でした。最近では単に経済的な面だけではなくて、精神的な自己決定とか自己選択とか主体的に自ら生活に関わっていくということを自立という視点から捉えていこうという考え方が広まってきてるところです。

(委員)そういうふうに包括的な概念で立つほうの自立が使われているのであれば、その説明をどこかに書くと良いと思います。与えられる講座を受けるだけではなくて、自分がやりたいことを考えてテーマを決めて自分で手段を探して学びを生かすというのが自立だと思います。

(委員)少なくとも生涯学習は生活的に自活するためにあるものではありませんから、この自立というのは、律するのほうの自律の意味合いが強くて、自らが学んで成長する中で、それを生かして主体的に自己の成長とか社会の発展のために生かしていくというのが、まさに自立した個人であり市民であるという意味合いだと思うので、自立の意味をどこかに定義したほうが分かりやすいと思います。

(委員)目指す個人像みたいな、どういう県民を目指してるかというのを書かれたらいいかと思います。

(会長)大きいところで押さえていかなければと思います。成人教育学でも1番の目的はオートノミーです。ただ、立つほうの自立もオートノミーとよく似た形で使われるようになって範囲が広がってきてますので、きちんとオートノミーの自律というところがはっきり分かる形で押さえていきたいと思います。

(事務局)今の議論の参考ですが、18年に改正された教育基本法の中で、大きく変わったところが何カ所かありまして、教育の目標のところが大きく変わっております。その中に、教育はその目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとするというものの中の1つの号に、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うという記述がございます。ここで書かれている自律というのは、オートノミー、ぎょうにんべんのほうの律です。

(会長)基本的に生涯学習の中の自立というのは、オートノミーのほうを使います。

(委員)「まなぶ」のところでは健康づくりがありますが、生涯スポーツや趣味、高齢化が非常に大事な視点になってきています。スポーツを学ぶ、例えばウォーキングのやり方を学ぶということを生かすというのは、日常生活習慣に生かすということなんですね。園芸を学ばれたら、それを自分のおうちでやるということです。そういう生活習慣に取り入れてもらうということはまず生かすということの最大ではないかと思うんですね。さらに、例えばブルーベリーの栽培を勉強した場合に、地域に帰られたときに土の材質が違ったりすると思うんですね。ウォーキングもある一定の1カ所でやっても、湖南と湖北との地形も違いますので、そこでウォーキング道をみんなで考えるという、そういう自分で生涯学習を立案したり企画するのも、生かすことになるのではないかと考えています。

(会長)今、日常生活習慣の中に生かすという言葉をいただきましたが、地域の中で生かすという視点ももう少し分かるように加えていけたらと思います。

(委員)県民のみなさんが環境学習に関心が高いということがデータで分かったんですが、環境学習と書いてしまうと、非常に固くてハードルが高いように思うんです。自然の体験とか、体験をともなう学習でも十分環境学習に値すると思いますので、世代幅広く誰でもできますよっていうことを今回打ち出すのであれば、自然体験の機会を増やすとか、もうちょっと柔らかく表現することが学ぶにつながるんですよっていうふうに表現できないかなと感じました。

(会長)そうですね、体験も学びですので、先にいただきましたご意見でも、地域の中でつながるということも幅広いつながりということもご指摘いただきましたように、これを本当に幅広く深くという方向で今回の骨子案を作っていきたいと思います。

(委員)学びの2つの視点というふうに個人の要望と社会の要請に分けておられますが、例えば環境にしても、個人の要望から出てくる部分もたくさんあると思いますので、あえてここで2つにわざわざ分けるほうがいいのか、どうかなとちょっと思いました。

(会長)教育基本法で出てたからですよ。ちょっと堅苦しいのと、この全体の流れから見て幅広くという点とでは、必ずしも分けられないところもありますので、表現の仕方をもう少し幅広くなるような形で考えていく必要があるかと思えます。

(事務局)個人の要望と社会の要請ですが、全く2つに分けられるのかというと、そうではないと事務局では考えました。例えば、ダイエットやマラソンは個人の要望に近いと思います。マラソンによって体重が落ち、結果的に血圧が下がり、血糖値が下がり、コレステロール値が下がると、個人に対するメリットとして返ってくるんですが、長い目で見た場合に、もしそういう取り組みをしなければ、おそらく病院にかかることもあると思います。病院にかかるとう医療費を払います。私の様な公務員であれば、一部自己負担で残りは共済組合から支出されます。組合に対する負担金という形で税金が出ていきます。だからなるべく病院にかからないことは、社会にとってもメリットがあるということであり、社会の要請になると思います。そういうふうに明確に分けられないというのはおっしゃるとおりだと思っています。

もう1つは、今回、1つの枠組みとして上位計画である県の教育振興基本計画があります。これの下位計画という限定が与えられていて、その基本計画の中で、「学びあい、支えあう生涯学習社会をつくる」と書いてあるのですが、その柱書きの部分を読み上げさせていただきます。県民一人ひとりが生涯を通して主体的に学び、この学びの成果を自らの生活や仕事に活かすことによって、心豊かでいきいきと自立した人生を築くとともに、世界的な視野を持って、地域において互いに連携しながら様々な課題の解決を図っていく生涯学習社会づくりを目指します、というフレーズになってます。前段の部分は個人の要望に近いものだと考えました。後段のほうは社会の要請に近いものであると考えました。そういう形でこの分け方をすることによって、上位計画であるこの基本計画とも整合性をとるようにしています。

(会長)上位計画というものがあってということですが、幅広くやっつけていこうという5年間の計画ですので、もう少し柔らかく表記するような工夫を加えていったらどうかなと思います。

(委員)要求課題と必要課題の考え方がありますよね。生涯学習というのは1番基本的な主体的な学びで、そういったものに答えていくのが1つの大きな使命なんですが、それだけで生涯学習の学びを終わるのではなくて、自分が市民として地域の中で生きていくうえで、一人の自立した人間として学ぶ必要があるという、それがまさにこの社会の要請あるいは必要課題と言われるもので、これは明確に分けられないと思います。その両方の学びがバランスよく学ばれて、初めて生涯学習というのは豊かになるんだということを理解してもらうために、この2つの課題をしっかりと押さえていきたいと思います。

(委員)よく分かりましたし、逆にそういうことがはっきりすると、学ぶとか生かすとかが、次にはっきり見えてくるのかなと思います。

(委員)社会の学びというものが、結局は生かす方向にどんどん、どんどんつながっていくとそれがまちづくりとか地域づくりという形になっていくと思います。

(会長)ぱっと見て、県民の方がどう思われるかということが1番大事だと思います。この上位計画はすごく上手くできてまして、先に社会があるのではなくて、個人の成長がより良い社会を形成するという主体性を重視した書き方をしてあると思います。この上位計画を中心に、社会の要請というのがあまり前面

に出ない形で、広くとか身近にというのがありますので、両方の意見が出るように、上手く作っていく必要があると思います。

(委員)「つながる」の中で、世代をこえてつながるといふのを是非入れていただければと思います。高齢の方が生涯学習に意欲的だし、保護者の立場で自分はどうか生涯学習とつながっていくかということ意識をもって、子育てしながらPTA活動をしていることが生涯学習だということだと思っておりますが、どの世代も生涯学習に参加できるし、お互いに学びあったり、次の世代につなげていこうという意識を持っていくと、さらに、やり甲斐がありますよというところを入れてもらったほうがいいのではないかなと思いました。

(委員)社会の要請ということで、国際化という文言がもう少し前面に出てきてもいいのかなと思います。滋賀県はご承知のとおり製造業が大変多い県です。その中で今、中小零細企業も世界へどんどん出ております。数年前から重要な会議は英語でしているというのが実情です。それから、国際的、国際化というと、受け入れのほうばかりなんですけど、今、企業というのはもう日本で作れない、コストが高つくからどんどん出ていってます。その中でやっぱり外向きの国際化というような話もほしいと思います。

(会長)そうですね。その他のキーワードとして入れておくべき言葉というのがあればお願いします。

(委員)「まなぶ いかす つなぐ・つながる」という言葉は今ひらがなですが、英語とかで書いてあったらいいなあと思います。「まなぶ いかす つなぐ」ということはものすごく生活に大事なことで、滋賀県で外国の方が増えているので、日本人ともう少しつながらないといけなあと感じます。

(会長)大きな国際化、出て行くほう、取り入れるほう、また身近な国際化ということもきちんと押さえたいと思いますし、今後、広報等で英語のものを作るといふことも重要かと思えます。

(委員)子育て支援のところ、子どもの食育とよく言われますが、滋賀県の伝統食とかいろいろございますので、生活に密着した食事関係のことをここにいただいているのかなあと思って大変喜んでおります。地域でも、何か行事をすると、食事の料理の教室みたいなのを先日もしましたが、やはりそのほうが学びに対しても、すぐそれを家庭に帰っても生かせるということに使われて役立っているので、食育という言葉も入れていただければありがたいなと思います。

(委員)「まなぶ いかす つなぐ」が、両方向の矢印のように機能していくことが、一人ひとりの生活を豊かにしていくんだなというのを勉強させていただきました。環境問題が51%、その後高年齢者、障害者という形で、マイノリティに対する学習を深めていきたいという要望があるということから、社会の要請としては、人権の世紀と言われる部分で、外国人も1つの視点として明記をいただければと思います。

それから、滋賀らしさというのが冒頭に出たので、ずっと考えてたんですが、1つは環境学習があって、地域と結びついた学びと活動は滋賀県の特徴と書いてあるので、この2つを中心に考えてたんですが、今度NHKで大河ドラマが滋賀県の北のほうで取り上げられるというので、文化遺産や歴史の部分で非常に県として脚光を浴びるといふことで、そういう視点も1つ滋賀らしさに入れるのかなあと考えます。

(委員)行政の立場からになるんですが、生涯学習の推進というのに、常々行き詰まることが多くて、どのように進めていったらいいのかなと悩んでいるところで非常に勉強になりました。この「まなぶ いかす つなぐ・つながる」をもう少し短くというご意見があったんですが、生涯学習というイメージをつかみやすいですし、いいなあと思ってます。個人の要望と社会の要請ですが、個人の要望については放っておいてもみなさんされていくんですが、社会の要請は生涯学習の推進には本当に重要で、行政側からすると、この部分を推進していかないといけないという責務があるんですが、住民の方の認識は個人の要望のほうがウェイトが高くて、生涯学習というのは個人のやりたいことだと思っておられます。でも、そうではなくて、社会の要請という社会の課題、そのことが市民・県民に分かりやすいように、専門用語ではなくて、

もっと噛み砕いて表現していかなばならないと感じました。

(会長) 次の段階で、第2章のところ、各主体の取組と連携・協働というところに、今まで出たご意見等を書いていただいておりますが、これに加えまして、こういうものが必要ではないかというようなご意見をいただければと思います。また全体構想としてもご意見あったらお聞かせいただきたいと思います。

(委員) 生かす場の設定としてボランティア関係の施設がどこにも明確に位置づけられてないということ、ボランティア関係施設との連携・ネットワークは、きちっと位置づけて連携をしていかないと、生かす支援にはならないのではないかとというのが1点です。資料を見たときに連携には見えないですね。真ん中に円でも書いて、放射線状にいろんな機関を書いて、お互いいろんなところがつながって生涯学習社会を作っていくというふうに、連携・協働を表すんだったら、そっちのほうが分かりやすいかなと思います。

(委員) 第2章の県民とか地域など全部空白ですが、具体的にどういうことを入れようというイメージでこの図にされたのでしょうか。1例を挙げていただけませんか。

(事務局) 学んだことを自分の生活に生かすことが大切であるということ、それを違うところの場で生かしていけるようなことが大切だすってというような、こういうことが内容として必要であるということを書いていただけるとありがたいと思っています。

(会長) そういうものも含めて、このようにしたら良いという意見、これは必ず伝えておくべきだというご意見があったらどうぞ。

(委員) もうちょっと行政の役割を広げて、行政が担うべき役割ということで、それぞれの主体との関わりの部分がもうちょっとこの段階で明確になってもいいのかなという気がします。

(会長) インターネットとかでつながりはどんなイメージになるのでしょうか。

(委員) 人間のつながりというのはバーチャルだけでは駄目で、リアルな実世界で、顔を見てのつながりも大事なので、その底支えしてるものが、ネットも使いますよぐらいの感じで、ただ、ネットのサービスを楽しむ方とできない方がおられて、情報格差がますます5年で広がっていくことは予想できるので、行政がどう支援していくかというのは視点の1つとして入れなければならないのではないのでしょうか。

(会長) 前回の各主体の取組という全体の体系のあたりですが、協働・協働と書いてあるのですが、今回しっかりと「まなぶい casual」、そして「つなぐ・つながる」というのが表に出ていますので、連携・協働のほうの「つなぐ・つながる」のところも明確になる形で、内容的にも「つなぐ・つながる」が出ていってこそ、第4次の特色になるのではないかと思います。

(委員) 第2章の地域のところですが、世代間というのは地域ですよ。今、大津市の環境教育のお手伝いをさせてもらってるのですが、山を歩いたり緑の中を歩くということを親があまり体験してない。そういう時代になってきているから、子どもも体験が少ないですね。だから、そういう世代間をつなげるということ、インターネットが発達すればするほど、また逆の体験をするのも特色になるのではないかと思います。

それと、行政のところ、学びと生かすのつなぎ役と書いてあるんですが、ちょっと消極的なので、例えば推進役とかが良いと思います。2年か3年前、スポーツレクリエーション大会があって、びわ湖一周のウォーキングをされたんですね。たくさんの協力団体がたくさんの地域を歩きましたから、滋賀県民の人も自分の地元ではないところで、こういうのがあるんだってことをよく知られたんですね。今でもたくさんの方がやっております。そういう1つの契機があったから、滋賀県を知っていただいて、みんな来るようになりました。そういう推進役だったらいいかなと思います。

(委員)放射状というのが非常に分かりやすい考えですが、せっかく前段でお話いただいた人と人とのつながり、人と機会のつながりというのが、表現が弱くなってしまふかなと思います。これは組織と組織のつながりで、そういうのが強調できる表現があればいいなと感じました。

(会長)第2章の書き方について、工夫が必要ということもありますが、全体の骨子案としてはご意見いただけたかと思ひます。まず「まなぶ いかす つなぐ・つながる」のところ、リズムを考へてどうかということ、ぱっと見る形で分かるようにということ。ひらがなにするかどうかという意見、それから今回の「つなぐ・つながる」は非常に重要ですので、「つなぐ・つながる」が良いか、「つながる」が良いか、「つなぐ」にするか、いかがでしょうか。それと、全体の目標を付け加えるということもいただいております。ご意見ありましたら、おうかがいしたいと思ひます。

(委員)このキーワードをずっと考へてたんですが、最初に「まなぶ」と「いかす」は平行でいけるけれど、「つなぐ・つながる」は全体を包むような形ではないかということをおっしゃったので、この3つを同じ柱で並べていいものなのか考へていました。それと「まなぶ」と「いかす」という書き方をすると一方的なので、学びあうとか生かしあうとか相互に作用が働くような書き方をすることも1つかなと思ひました。それと、生かして学ぶという言い方より、学んで生かすという順序かなと思ひたので、段階を踏んだフレーズにして、プツプツと切らないほうがいいかなという気がしました。

(会長)学んだものをまた他の人の学びに生かすっていうのもありますし、難しいですね。

(委員)自分が学んでるつもりが、相手に学ばせてあげてたとか、子育てとかがそうなんですけれど、そこまで言うとなんとなく難しくなるかなと思ひます。

(会長)みなさんのいろんなご意見をお伺ひして、総合的な判断をしていきたいと思ひます。学びあう、生かしあうというのも1つの視点だと思います。全く個人のご意見でいいと思ひます。個人的にはこれが好きというようなご意見も非常に貴重なご意見だと思いますので。

(委員)「まなぶ いかす つながる」という言葉が、人と人がつながって1つの社会を作るという意味で、「つなぐ」ではなくて、「つながる」のほうがいいなあって感じます。

(会長)「まなぶ」ということ、「いかす」ということ、そして「つなぐ・つながる」、「つながる」が良いというご意見もありますが、みなさんのご意見を加えた形で、次の素案を作っていくたいと思ひます。

全体として、「つなぐ・つながる」というところ、それから「まなぶ いかす」、もっと身近に広くというところ、今回「つなぐ・つながる」が非常に重要なキーワードとなっていくかと思ひます。それと、個人の要望と社会の要請という点で、上位計画に従ってということですが、もう少し柔らかい形での表現も加えていきたいと思ひます。第2章のほう、もう少し工夫が必要かと思ひます。

またみなさんからご意見を出していただくことも含めまして、私と副会長とで相談して、答申の素案を作成して、みなさまの今日のご意見を盛り込んでいきたいと思ひます。そして次の協議会でご承認いただくというように進めたいと思ひますがよろしいでしょうか。ありがとうございました。

(4)その他

事務局説明

今後のスケジュールについて

3.閉 会